

心に残る文化財子ども塾 松江市立古江小学校

1. 活動の概要

令和3年6月29日（火）、松江市立古江小学校6年生36名を対象に「心に残る文化財子ども塾」を開催しました。授業で習ったばかりの古墳時代について理解を深めるため、同校の校区にある3基の大型古墳を徒歩で移動しながら見学しました。古墳の丘古曾志公園の大谷1号墳では、ワークシートを利用して形や大きさを調べ、古墳を造った当時の有力者について一緒に考えてみました。

勾玉づくりでは、古墳時代の出雲の玉が全国でも有数のブランド品だったことを解説した後、体験に取り組みました。

2. 活動の様子



ワークシートの問題にチャレンジ



古墳の長さを歩数で測ってみる



古墳の上から



ステージで勾玉づくり

3. 活動を終えて

①生徒のみなさんから

- ・ 出雲市や佐田町内にたくさんの遺跡があることがわかった。
- ・ 大仏パネルをして、なんでだろうということもたくさん知ることができた。
- ・ 昔の人が和同開珎をどのように作っていたか、実際に体験してみて苦労して作っていると分かったし、すごい技術を身につけていたと知った。
- ・ 佐田の吉栗山と出雲大社との深い関係についてのところが一番心に残った。

②先生から

- ・体験と座学の両方ができてよかった。
- ・座学は、クイズ形式にするなど飽きない工夫があるとよかった。
- ・大仏パネルは、組み立て前にヒントを出されると絵より数字を見ていてもつたいたいと思った。
- ・和同開珎の実物は説得力があった。

③古代出雲歴史博物館から

- ・生徒さんは各プログラムで興味を持って主体的に取り組まれていた。
- ・コロナ対策を取りながらの実施でしたが、多くの先生にご協力いただきスムーズに進めることができた。